

千刈狸の呟き

鉄道マニアは5月の連休に開業40周年の三陸鉄道に挑戦しました。1987年7月、夫婦で三陸を車で旅行した際、南欧風の駅舎「カルボナード島越駅」(宮沢賢治の童話「グスコブドリの伝記」から名付けられました)、古民家風の「カンパネラ田野畑駅」(宮沢賢治の童話「銀河鉄道の夜」から名づけられました)が印象的でした。震災後の復興をこの眼で見たく、また三陸鉄道全線(盛-釜石-宮古-久慈)の制覇を考えたのですが、時間の都合で、釜石-久慈間を乗車しました。

2023年5月3日(金)、朝、こまちで大曲駅から盛岡駅へ。乗り換えに2時間ほどあり、駅弁を買い込み、盛岡駅11時26分発JR快速「はまゆり53号」に乗車、東北本線で花巻駅まで9駅、その後、釜石線で23駅、釜石駅に向かいました。釜石駅13時58分着。乗り換えがあわただしく、14時12分、三陸鉄道久慈行に乗り込みました。15時32分、宮古駅着。本日の宿、ホテル近江屋へ。宮古港フェリー埠頭を望むホテルからは、高い防波堤、貯木場を見下ろし、太平洋の眺望が楽しめます。震災時、ホテルの1階は浸水、貯木場の丸太が流れ込み大変だったそうですが、ホテル全体は問題なく、1階を改修後、営業を再開できたそうです。海がすぐで、建物が健在だったのが不思議です。耐震構造が良かったのかとホテルの話です。夕食は海鮮中心に品数が多く、鮑の踊り焼きなど豪華でした。

5月4日(土)、4時30分起床、晴れ。6時過ぎには朝食をいただき、新鮮なイカ刺し、アジフライが美味でした。朝食後、ホテル周囲の散策で、目の前のフェリー埠頭に向かい、寄港したクルーズ船「シルバー・ミュージズ」、歓迎セレモニーを見ることができました。いろいろなクルーズ船が年に数回程度寄港するようです。埠頭からの帰り、改めて間近に見る防波堤はその高さ、巨大さは圧巻ですが、周囲の震災後の整備は半ばのようです。三陸鉄道宮古駅9時23分発、久慈駅行に乗車(現在、台風5号の影響で宮古駅~新田老駅間は代行バスの運転中)。10時9分、島越駅着。南欧風の駅舎「カルボナード島越駅」はなく、新駅舎は高台に移され、旧駅舎の場所は、復興公園、島越ふれあい公園となり、旧駅舎の階段、

～ 三陸鉄道を垣間見る ～

旅好き狸

津波に耐えた宮沢賢治の詩碑が被災当時の姿のまま佇んでおります。手を合わせ、冥福をお祈りしました。島越港へ向かい、10時30分発の北山崎断崖クルーズに乗船しました。(帰宅後、1987年訪問時にも乗船しておりました。)船からリアス式海岸、垂直にそそり立つ200m級の絶壁が堪能でき、またパンに群がるカモメは懐かしいものでした。船から海岸に本日の宿、ホテル羅賀荘も確認できました。下船後、地上から北山崎に向かいました。波打ち際に続く遊歩道はかなりきついものですが、道端にタンポポ、陸からの海岸線見下ろしもいいものです。昼食は松乃屋食堂でメカブそば、磯ラーメン、生ウニ丼をいただきました。ホテル羅賀荘に着きました。部屋は古いがメンテナンスは良く、眺望絶佳、風呂も大きく、温度もいい。海岸にありますが、震災から復活したホテルです。夕食は前日同様に海鮮中心の豪華料理でした。

5月5日(日)、4時半起床し、岩陰からの朝陽は幻想的。久慈駅行に乗車するために田野畑駅に向かいました。古民家風の「カンパネラ田野畑駅」は、震災の津波は海拔20mにある駅の真下まで迫り、周囲の漁村は大きな被害を受けたそうです。駅舎、ホームは、無事で1987年と変わりません。駅舎の壁に、以前にはないサクラアートが描かれていました。8時37分発の久慈駅行に乗車。途中、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」のロケの行われた堀内駅、太平洋の景色の広がる堀内駅、野田玉川駅の間に架かる安家川橋梁で一時停止、久慈駅到着。隣にあるJR八戸線久慈駅11時11分発の八戸行まで、駅前でぶらぶらしておりました。駅前の古びた久慈駅前デパートに「あまちゃん」の看板を眼にしましたが、昔のままのようです。実際の「北限の海女」を見ることは残念ながらなしでしたが、久慈駅には「久慈琥珀」のショップがありました。前日予約した1日20食限定の「うに弁当」も美味しくいただきました。久慈から八戸まで約1時間44分、八戸から盛岡まで新幹線で37分、盛岡から大曲まで新幹線で1時間12分と帰途に着きました。

三陸鉄道、三陸の震災復興を垣間見ることができた自己満足の旅でした。